

278
百藤

自衛隊南スーダンPKO派遣の即時撤退を求める院内集会17日、衆院第一議員会館



法律家団体が集会

隊員の母 胸中語る

自衛隊の南スーダンPKO(国連平和維持活動)の即時撤退を求める院内集会在17日、衆院第一議員会館で開かれました。主催は、社会文化法律センターや自由法曹団などです。

「改憲問題対策法律家6団体連絡会」南スーダンに派遣された自衛隊部隊の「日報」(隠蔽(いんぺい)が重大問題となるもので会場には約100人が参加。報告に立った日本国際ボランティアセンター(JVC)の谷山博史代表理事は、南スーダンにスタッフ

を送り、現地の状況を確実に伝える活動をしていっていると紹介。南スーダン政府と反政府勢力が、戦車や迫撃砲を用いた激しい戦闘を繰り返し、和平合意が瓦解(がかい)している実態を告発し、「これでも戦闘でないというのか」と批判しました。自衛隊員の母親で、

南スーダンPKO派遣差し止め訴訟の原告である平和子さんは、国民にまともな説明もなくPKO派遣を決めた安倍政権を批判。危険な戦闘状態の南スーダンに「息子が送られるかもしれないと思うと胸が苦しくなる」と述べ、「稲田朋美防衛大臣には辞職していただきたい。安倍晋三首相の任命責任を追及したい」と訴えました。同訴訟の佐藤博文弁

護団長も南スーダンPKO問題の論点や、たたかいの方向性について報告しました。日本弁護士連合会の山岸良太・憲法問題対策本部長代行、日本労働弁護団の東(なつめ)一郎幹事長、「戦争させない・9条壊すな!総がかり行動実行委員会」の高田健共代表が連帯あいさつしました。日本共産党から衆参両院の国会議員6人が

出席し、笠井亮政策委員長があいさつしました。民進党の近藤昭一(さつ)もあいさつしました。衆院議員、社民党の福和協力専門官は、他国や国連との信頼関係が損なわれるため日報は開示できないとし、南スーダン政府との自衛隊の受け入れ合意があるとして「PKO原則上の問題は生じていない」と聞き直りました。

防衛省にわい曲批判

差し止め訴訟原告らが要請

自衛隊の南スーダンPKO(国連平和維持活動)派遣差し止め訴訟の原告・平和子さんらに、わい曲していること、武力衝突だ」とわい曲していることを批判。戦闘と認めればPKO5原則が崩れ、PKO5原則が崩れることを指摘して、「自分たちの都合が悪くなるのでしょ

う。そんなごまかしは通用しない」と述べました。防衛省の統合幕僚監

部の松本隆治・国際平和協力専門官は、他国や国連との信頼関係が損なわれるため日報は開示できないとし、南スーダン政府との自衛隊の受け入れ合意があるとして「PKO原則上の問題は生じていない」と聞き直りました。

佐藤博文防衛団長は、国連が幾度も指摘してきたように南スーダンは内戦状態であると指摘。PKO5原則は崩れていないとする政府の言いは成り立たないと強調し、ただちに自衛隊を撤退させるよう重ねて求めました。

南スーダンPKO撤退を

衛相あての要請書を提出しました。日本共産党の島山和也衆院議員、紙智子参院議員が同席しました。

防衛省の統合幕僚監